

郵便振替=00100-3-749814 名義「上島敏昭」

大道芸アジア月報 2020 年 4 月

vol. 31、no. 4

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

■大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

■大阪・天保山海遊館広場 ■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>■お台場・デックス東京ビーチ ■クインズスクエア横浜 at! www.studioeggs.com ■名古屋・大須ふれあい広場■ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、ジャックモール） <http://daidogeij.jp/>■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■東京都へブンアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/■江ノ島大道芸 <http://www.fujisawa-kanko.jp/alacarte.html>■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

★ニュース

「阿波木偶箱まわし保存会」の中内正子さんが、第 12 回「とくしま芸術文化賞」を受賞し、3 月 25 日、表彰された。同賞は徳島県文化振興財団が芸術文化の振興に貢献した個人を顕彰する賞で、同保存会と中内さんの功績が称えられた。

★今月の大道芸公演

※コロナウイルス蔓延のため、ほとんどの催しが中止か延期です。実行についてはHPなどをご確認ください。

△新猿楽記～cirque de kyoto～ 古典文学×伝統芸能×新技術【中止、後日映像作品として発信】 <https://kyoto-steam.com/program/event08/>

○ロームシアター京都メインホール

●3月29（日）13：00 / 17：00

構成・演出：高橋浩、芸術監修・出演：小笠原匡、サーカス監修：QUMIKO

出演：小笠原匡、小笠原弘晃、目黒陽介、クロワッサンサーカス（清水ヒサヲ、とつ、花火、ケンタ、吉川健斗）、hachiro、黒谷都、上加茂やすらい踊り保存会、ほか

一般¥1000、中学生以下無料（全席指定、前売り、当日とも）

申込み：ロームシアター京都チケットセンター 075-746-3201

△国立演芸場・演芸資料展「エノケン」【4月12日までは休室】 ○国立演芸場・演芸資料展示室

●4月1（水）～7月26（日）

△トークライブ! 世界無形文化遺産フェスティバル【中止】 <https://wfes.jp/> Ohako gallery (渋谷区西原 3-1-4 2F)

●4月1（水）19：30

4/18 & 19 に日比谷公園で開催予定の『世界無形文化遺産フェスティバル 2020』の制作秘話と現地映像

¥2000（乾杯用日本酒1杯付き）

△第66回全日本チンドンコンクール【中止】 <http://www.ccis-toyama.or.jp/toyama/cin/top.html> ○富山県民会館、富山城址大通り、ほか

●4月3（金）～5（日）

おおまるラップ社（大分）、べんてんや（愛知）、えびすや（おおさか）、チンドン芸能社美香、ハッピー宣伝社（大阪）魅弥楽座（富山）、ビー玉本舗（福岡）、華乃家（大阪）、ちんどん月島宣伝社（東京）、遊舞台（東京）、チンドン芸能社久ちゃんファミリー（東京）、菊乃家（東京）、政丸（大阪）、當財家（大阪）、あづまや（東京）、ダーコスちんどん隊（秋田）、菊乃家遊組（東京）、もんだ堂（富山）、ちんどん海泉社（愛知）、囃子家（大阪）、あけぼの屋（東京）、桜小路陽炎（富山）

△志免祭～国際コメディシアターフェスティバル 2020【中止】 <https://h732.net/simesai/> ○福岡県志免町志免

●4月10（金）前夜祭、11（土）・12（日）

前夜祭（h732シアター）「炭鉱コメディナイト 2020」=10（金）19：30より

シアタープログラム

清水宏=11（土）14：00、12（日）11：45&15：00 / 小心中=11（土）11：45&15：00、12（日）14：00

/ 非・売れ線系ヴィーナス=11（土）12：45、12（日）12：45 / 望ノ社=11（土）16：00、12（日）16：00

/ どん・べんた=11（土）14：45、12（日）14：45 / 志免の祭りしめ縄の縁=11（土）13：00

/ シメンタイ・シアター=12（日）13：00

大道芸プログラム

カナルベキノワ、ダメじゃん小出、三雲いおり、ユキンコアキラ、彦一団子、めりこ、芸人まこと、GABEZ、YAYA、加藤みきお、加納真実、黒龍武術団、サム&メロンちゃん、なるせ女劇劇団、CHISHA、

△多治見大道芸見本市【中止】 <https://tajimidaidougei.jimdofree.com/> ○多治見市虎溪用水広場（JR多治見駅北側）

●4月12（土）・13（日）

サンキュー手塚、Daggle KOMEI、Clown Bomb、油井ジョージワンマンバンド、さくら組、TOMMY&紙磨呂、アストロノーツ Mark2、猫のアーサー、アートパフォーマー☆ファイター☆、スピニングマスターズ オーバートーン、Rei Iwakura、オマールえび、くす田くす博、

健山、文房具エンターティナーKay、komatan、スマイルパフォーマーQちゃん、大道芸人ジニー

△はなのわ大道芸 <https://hananowadaidogei.wixsite.com/member> ○広島市中央公園（旧広島市民球場跡周辺）

●4月20（月）～5月24（日）

4/20 渡辺あきら、4/20 スピニングマスターズ OK! ヒロヤ、4/20～4/24 くす田くす博、4/21～4/23 バルーンパフォーマーASUKA、4/21～4/27 Freestyle Footballer TOMMY、4/22～4/28 大道芸人れもん、4/23～4/29 大道芸人 KAJI、4/25～4/28 大道芸人ひろと、4/29 KURAU、4/30～5/2 大道芸人ひろと、4/30～5/6 わくわくブーブ、5/6～5/12 大道芸人ジニー、5/8～5/15 リューサー、5/9～5/14 どん・ぺんた、5/9～5/12 スマイリーシゲ、5/15～5/17 スマイリーシゲ、5/13～5/15 Box performer まさきち、5/13～5/19 フレアーバーテンダー増田タカノリ、5/15～5/21 綱乗りジョニー、5/15～5/18 Spray Artist YASUKI、5/18～5/24 アートパフォーマー☆ファイター☆、

△ヨコハマ大道芸 2020【延期】 <http://daidogei.jp/yokohama2020> ○横浜市内みなとみらい地区、伊勢佐木町、石川町駅周辺

●4月18（土）・19（日）

△世界無形文化遺産フェスティバル 2020【中止】 <https://ttf-koubo.jp/project/jfpa/> ○都立日比谷公園大音楽堂・噴水広場ほか

●4月18（土）・19（日）

ガヨの伝統舞踊 サマン（インドネシア）、セト・レーロの多声歌唱（エストニア）、エチオピアの民族芸能（エチオピア）、トンガの歌と踊り ラカラカ（トンガ）、東ブータンのヤクの踊り（ブータン）、ガリフナ民族の歌と踊り（ホンジュラス）、仰山流笹崎鹿踊り（岩手県）、秋保の田植え踊り（宮城県）、じゃんがら念仏踊り（福島県）、和太鼓（東京都）

△第45回野毛大道芸【延期】 <http://nogedaidogei.com/> ○横浜市野毛商店街

●4月25（土）・26（日）

あめ細工吉原、ヴィザン林、エスコラチサンバサウーヂ、片腕のマジシャン HAKU、桔梗ブラザーズ、空転軌道、クラウンジュカ、ケチャップリンたび彦、パフォーマーしほちゃん、シルヴブレ、セイムセイム、SEOPPI、タカパーチ、知念大地、中国雑技芸術団、toRmansion、道化師 LOTO、東邦新悟、日本民間伝承技術しんこ細工、猫のアーサー、Performer SYO!、日ノ出サンデーズ、富士丸（旧桜小路富士丸）：伴奏服部こうじ、ヘルシー松田 with みま、ボンバングー、フェイスペインター☆ミホウ、紫ベビードール、めりこ、望月ゆうさく、山本光洋、油井ジョージワンマンバンド、吉川健斗

△第12回高円寺びっくり大道芸 2020【延期】 <http://www.koenji-daidogei.com/2019/> ○高円寺駅周辺

●4月25（土）・26（日）

△千住大道芸フェスティバル【延期】 ○北千住

●4月25（土）・26（日）

オリーブまち子、キクチマコト、白鳥兄弟、ポーターたかつき、ぼにあい工房、ユーコとカレン、レンカ、akari、ソらと晴れ女、フューチャリズム（パーツイシバ・ピー・ポーターたかつき）、柚希かおり、AXEL 翼、Stick Artist KIA、大道芸人ゆうた、大道芸人ゆきた、Performer SYUN、ぱふおーまーまめ、金魚姫、クラウ、グレイスト、沢村誠一、しろみときみ、茶運び人形 鈴、ファンタスティックドール、Performer じゅんいち、はまだしんたろう、舞夢男爵、生人形雪狐、にこにこぼ～や、バルーンパフォーマー☆キャサリン&海賊タロウ、KIRIGAMIST 千陽、ちかまる、長谷川あひる、願羽マサル with 願龍団、池崎浩士、七瀬カオリ

△玉すだれ博覧会 2020～寿ぐ～【中止】 <https://tokyoeast21.net/taito/11584/> ○浅草公会堂ダイホール

●5月2（土）第一部 12:00 開演 第二部 17:00 開演

全国より約400名の玉すだれ愛好者が大集合。浅草雑芸団出演。

第一部・第二部それぞれ 前売り¥2500（当日¥3000）

主催：大江戸たますだれ、TBSラジオ

△清水みなど大道芸 2020 <https://www.dream-plaza.co.jp/event/detail.php/280> ○清水エスパルスドリームプラザ

●5月3（日）・4（月）・6（火）

△ガーデンシティ多摩センターこどもまつり大道芸フェスタ <http://www.tamacenter-cm.com/kodomo/> ○ガーデンシティ多摩センター

●5月3（金祝）～5（日祝）各日 10:00～18:00

問合せ：090-8946-9909（こどもまつり実行委員会）

△とよはしアートフェスティバル 2020 <https://www.toyohashi-at.jp/>

●5月4（土祝）・5（日祝）

若林正の

食って極楽

久々に豪華なゴチランチ

・・・赤坂しゃぶしゃぶ柘榴

所属しているナレーション事務所では月に二日ほど、喋りの勉強会をしている。しかしコロナ騒動で二ヶ月ほど休みになっていた。久しぶりに集まろうと先輩ナレーターから声がかかり、赤坂の事務所に出向いたのだが、私と若手の二人しか出席がなかった。それじゃ仕方がないから、景気づけに飯でも食おうかとの有り難いお言葉。

当然ゴチだ。本来ならば少し出しませよかと云うべきだが、稼ぎが全然違うもんで甘えてしまう。んで入ったのが、しゃぶしゃぶの有名高級店「柘榴」。もちろん入ったこと無し。落ち着いた雰囲気テーブルに案内されてメニュー見ると、あら！お高いこと。上は八千円から五千四千三千と下がって、ようやく牛肉バター焼き御膳千八百円にたどり着く。先輩は「何でもいいよ」と云うけど、ねえ？若手も困った顔してるから、じゃあみんな同じにすれば早く出て来ますよ、と助け船？を出すためでたく意見一致で丸く収まる。

出て来たランチ、普段喰うみたいにオカズに汁、お新香と小鉢、とはさすがに訳が違う。メインの肉以外にマグロ山かけ、菜の花おひたし、煮物に茶碗蒸し、汁は鯉節の香り高い赤だし、お新香は三種盛りで玄米ごはんと来たもんだ！どれも美味、んまいんまい。玄米、こんなにふっくら炊けるんだ。牛肉、量はそこそこだけど柔らかい。多少先輩に気は使ったけど、ごはんお代わりして腹一杯つうか腹六分であったが満足じゃ。普段の外食ランチ二回分の値段でこれならお得？。○たまにはプチ贅沢度＝8ワカ

25年ぶりの伊勢大神楽

上島敏昭

◆コロナウィルスについて

本題に入る前に、コロナウィルスと大道芸について記しておきたい。

私が最初に影響を受けたのは2月23日の、向島百花園梅まつりのキャンセルで、20日の夕方、電話で連絡が入った。17日に東京マラソンがコロナ対策として一般参加者を排除と発表があったので、都立公園である向島百花園のイベント中止は、その整合性をとるためだだろうと思った。その時点で、大道芸は普通に行われていたのである。

状況が変わったのは27日、安倍総理が緊急会見し、全国の学校・二週間休校要請してから。この発表と同時に、まるでドミノ倒しのようにつぎつぎと大道芸関連イベントが中止になった。大阪のライブハウスがクラスターとやりに名指しされたのも芸能＝悪者の印象を与えたかもしれない。しかしまだ、コロナ禍は中国、韓国、日本の問題だった。休校の二週間でアジアの騒ぎは鎮静していたが、その間にコロナは欧米に飛び火し、そちらで燃え上がった。

3月24日、東京オリンピックの延期が決まると、鎮静化どころか、日本でも一気に燃え盛り、感染者は急増。26日に小池都知事が4日間の不要不急の外出自粛要請を出したことがダメ押しになり、開催を模索していたイベント関係者も、世論に屈する形で、中止の決定を発表した。5月の連休までは大道芸イベントは一つもなし。お祭りも5月まではすべて中止。青森県弘前の日本一の桜まつりまでなくなった。自粛細々とやっていたはげブナーティストも活動中止。大道芸は4月1日時点で、壊滅状態である。

◆伊勢大神楽の回檀

伊勢大神楽の回檀に行ってきた。1990年から95年まで同行させてもら



っていたが、その後、ご無沙汰していたので25年ぶりになる。伊勢大神楽は、村むらを訪ねて家いえを門付けし、獅子を舞わせて悪魔を祓い、村の広場や寺社の境内などで、剣投げや皿回しなどの曲芸を演じて村じゅうの人を楽しませ、同時に村の安全と無病息災を祈る神事芸能で、山本源太夫親方を講元とする伊勢大神楽講社は国指定無形民俗文化財となっている。

例年12月24日に本拠地である三重県桑名市太夫村に、講社全員があつまって獅子舞・曲芸のほとんどを演ずる総舞と称される年中行事があり、そこには95年以降も、私は毎年欠かさず見学にいっている。また国立劇場などの大舞台に出演するときにもちよくちよく顔を出しているの、まったく無縁になっていたわけではない。とはいえ、そうした大きなイベントではなく、伊勢大神楽にとっては日常である家いえの門付け＝回檀に同行するのは、ほんとうに久しぶりであった。

◆メンバーと宿舎

今回同行させてもらったのは、加藤菊太夫社中である。この時期、滋賀県内を回檀中で、3月5日に宿舎に合流し、9日の朝までご一緒させてもらった。その期間中の出来事などを記してみたい。

メンバーは加藤菊太夫親方とその実弟である治さんを中心に6人。親方と治さん以外は、全員、わたしが社中から退いた後のメンバーで、私より若手である。当然なのだが、改めて時間の流れを感じる。25年前はいまの親方の父親の大親方のご健在で、ほかのメンバーも全員私より年上だったから、同行させてもらった当初は、行くさきぎで「今年は若い人が来た」と言われていたのだ。

そのころの宿舎は、八日市（現東近江市）の市街地にあった。築百年以上といわれていたオンボロ長屋で、近所では「お獅子さんの家」という人もいるほど有名だった。ときどき、人が訪ねてきてお初穂で拳がったコメを買っていくこともあった。獅子のお初穂の米はおいしいと言われていたのだ。1995年の1月、いつものように朝起きてあくびしながら布団をたたんでいるとき、突然、ドーンと突き上げるような震動、それにつづいてグラグラと家全体が大きく揺れ、壁も柱も床も、ギンギンと音を立てて軋んだ。長屋が壊れるのではと大騒ぎしたものの、棚から物が落ちただけで治まった。それが

阪神大震災だった。

この年を最後に私は社中から距離をおくようになったが、その数年後、たしか長屋の取り壊しが決まって、市内の材木屋さんの離れに移った。そこには十年ぐらいいて、数年前に、同じく東近江市ではあるが八日市市街からはだいぶ離れた一軒家に転居した。石塔寺という名刹にほど近い郊外で、現在は、滋賀県内の回檀はここを拠点としている。

この宿舎にお邪魔するのは、わたしは初めてである。近江鉄道の駅から徒歩15分ぐらい。近所にはコンビニも自販機もないから、静かではあるがいろんなことが不便のような気がする。



玄関には「伊勢大神楽講社湖東支部」の、長屋時代からの表札が上がっていて懐かしかった。平屋造りで、玄関の戸を開けると広い三和土になっており、米入りの袋が積み上げられ、長靴や雪駄なども並んでいる。部屋数は6つだろうか。ほかに台所と風呂があるから、長屋時代よりは広い。

わたしは治さんの部屋に同室させてもらったが、布団を二つ並べると、それだけで部屋いっぱい。着替えその他の私物を部屋の隅に寄せて置いてみると、八日市の長屋時代と同じように足の踏み場しかあいていない。はなしに聞く、一昔前のダム建設の労務者の飯場を想像してもらえばいい。ただし長屋時代とは違い、小型の液晶テレビやタブレットを一人ひとりが見ていた。

◆長持ち

3月5日。6時起床、食事を済ませ、6時40分過ぎに出発。これは私がかがっているあいだのルーティンだった。白い着物に、羽織、袴を着し、雪駄を履いて、全員がワゴン車に乗り込んだ。車には仕事で使う道具類すべて積み込んでから、かなり窮屈である。この日の回檀先は比良。宿舎からは琵琶湖大橋を渡った湖の向う岸の村である。現地に到着すると8時を過ぎていた。

下車して長持ちを降ろす。この長持ちのなかには曲芸の道具類や回檀さきに

配布するお札や手拭い、石鹸などのお札の品も入っている。さらにもっとも特徴的なのは、お宮さんが付いていることで、ここに獅子頭を納めている。この長持ちを、やはり車に積んであったリヤカーに載せて、回壇の準備完了となる。あいにくこの日は天候が悪いので、長持ちの上にビニールシートを被せた。到着直前に、ポツリポツリと降り始めていた雨が、しだいに強さを増しそうな、なんだかいやな気配をみせていたのだ。傘も人数分出した。雨の日は、この時期は休みにすることが多いが、日程が詰まっていると悪天候でも回るのである。

最初に、到着を知らせるお囃子を、笛と太鼓で演奏する。つづいて朝神楽。その日の最初の、儀式ともいべきもので、笛と太鼓のお清めの曲に合わせて、獅子頭をかぶり、お日さまと長持ちのお宮さんに向かって祈祷する。不思議なものでこの儀式をやるだけで、眠気も吹き飛んでやる気モードに入る。しかし、この日は小雨が降り始めていて、一日の先行きを想うと、気持ちもなんとなく湿ってくる。

◆大五郎

この日は二組に分かれて村をまわることになった。菊太夫親方は80歳を越えており、しかも先日まで入院していたので、実働は控えてもらいたい。そこで一組3人ずつとなった。すなわち初穂取り、獅子、太鼓である。もう一人いれば、獅子のアトモチ(尾持ち)兼荷持ちをやってもらうのだが、今日はアトモチを初穂取りが、荷持ちを太鼓がそれぞれ兼ねることになる。

やってきたばかりで右も左もわからない私は太鼓役となった。初穂取りと獅子役よりは、太鼓のほうがまだ楽なのだ。とはいえ、今日はそれに荷持ちも兼ねる。つまり、門付けの獅子舞で太鼓を叩くだけでなく、各家いえでお初穂として頂戴したお米を袋に入れて持ってまわる。お米はすぐに重くなるので、カートに付けた防水の大きな米袋にこまめに移し、そのカートを引いて巡回して行く。私が同行していたところ二十数年前に、このカートが導入された。

それ以前は大きな米袋は長持ちに載せ、そこに移していた。長持ちだけでもかなり重いので、米を載せると坂道を登るのは一苦勞。だからカートの導入は画期的だった。このカートを菊太夫組では「大五郎」と呼んでいる。使いはじめたころは「アレ引いてこい」とか言っていたが、当時メンバーにいたヨシオさんが

そのころ流行っていた劇画「子連れ狼」の乳母車からの連想で「大五郎」と呼んだことから、いつのまにかそう言うようになった。久しぶりに行ってみて、その名前が定着しているのをみて、妙におかしかった。

◆雨中の門付け

それにしてもこの日の天気はひどかった。雨から雪に変わり、小降りになって上がったと思ったとたんに、俄かに風が吹いて大雨になる……。結局、終日、傘を手ばなすことはできなかった。太鼓と米を持ったうえに傘をさしての門付けに、久しぶりに参加の私はテンテコマイであった。まず足元が大変だ。雪駄だから、ぬかるみを歩くうちに白足袋はいつのまにかドロドロ。袴にはハネが飛んでグチョグチョ。なにより気をつかうのはお初穂の米。濡れたら価値がなくなってしまうのだ。米袋を持ったままでは太鼓が叩けないので、その袋を雨が当たらない軒下などに置いて、門付けの悪魔払いの獅子舞の太鼓を叩く。舞いおわれればその米を持って次の家へ。

数軒門付けすると米をカートに移す。そうこうするうちに、カートの米袋もいっぱいになる。今度はカートを引いて自動車に戻り、米をそちらに下ろして、またカートを引いて門付けさきに戻ろうとするが、さあ、次に向かったのはどこに家だ。道順がわからないから、雨の中、傘をさしカートを引き太鼓を持って右往左往。情けなくなってしまった。

回るうちに保育園があった。例年は園庭で子供たちに獅子舞を見せているという。ところが数日前に安倍首相が二週間の登校停止を要請した影響で、保育園も外来者の園内立ち入りが禁止。申し訳ありませんがと恐縮しながら、ここでやってくださいと指示されたのは、玄関の靴脱ぎ場。ポリカの波板屋根の下、たたみ二畳ほどの狭い空間である。仕方がないので、いつもは二頭で舞うところを一頭で舞い、それを子供たちが玄関のなかから見ている。こどもたちは獅子が剣を咥えたり、それを抜いて斬る振りをしたりするたびに、キャーとかワァーとか歓声をあげてはしゃぎながら、あるいは怖がりながら見ている。そんな様子はいつも通りで、そうした普段と変わらない反応が返ってくると、こちらが安心できるように感じたものである。

◆御最良の方との交流

そうこうするうちに、ようやくお昼になった。この日はSさん宅でご馳走になる。足袋と袴の汚れを気にしながらお座敷に上がらせてもらう。料理屋さんから取り寄せたお弁当が人数分、ほかにビールとお酒が並んでいる。たいへん贅沢な昼ごはんだった。Sさんは大神楽の大ファンで、毎年、この地区をまわるときにはお昼を準備してくださっているようだ。おそらく個人負担だろう。滋賀県の回壇でのお昼は、Sさんのような御最良の方に御馳走になることもあるが、地区が負担して公民館でお世話になる場合や、地区長さん宅で接待してもらうことが多い。また日数は多くないが、お弁当持参や食堂で食べることもある。今回、コンビニ弁当の日があった。25年前にはなかったから、わたしは逆に新鮮だった。

お昼の行儀作法については、いろいろと細かい決まり事がある組もあるようだが、菊太夫組はそれほど堅苦しくない。私は菊太夫親方の隣に座るように指示された。親方の次にお酒を勧められるが、わたしはまったく飲めないので断らざるを得ない。私以外のメンバーは顔見知りとなっているので、飲みつつ食べつつ話はずむ。「こんなに天候が荒れたのは今年はずいぶん」「雪が多い村なのに、今年ほとんど降らなかった。今日が二度目の雪だよ」「比良八講、荒れ仕舞いというからな」などと世間話に花が咲く。

しかしやはり話題はコロナウィルスに寄ってしまう。大津で滋賀県第一号感染者が出たと朝のニュースが伝えていた。ご家族のかたが病院勤めだといいいエライことになったと心配し、診療現場の裏事情やお孫さんの学校のはなしなど。また大神楽もイベントが中止になっていることやさきほどの保育園の様子など、話題はつきない。そんなとき中心にいるのは親方で、Sさんも親方にさかんにお酒を勧める。私たちは親方の体調を考えて気が気でない。

小一時間ほどゆっくりしたあと、午後の回壇にもどる。まだ雨はやまず、なかなか仕事ははかどらない。結局4時過ぎまでやったが予定まで済ませることができず、残すことになってしまった。翌日から数日は日程が決まっており、今日のつづきを門付けに来ることができるのは数日後になってしまうと、村のひとに告げて帰路についた。宿舎にもどると18時半をまわっていた。こんなに遅くなるのは正月以外では珍しい。私が足手まといになったのも、遅くなった大きな理由の一つかと思うと心苦しかった。